

現代経済事情Ⅱ

日本の中小企業とアジア

第6回

2004年5月26日

高田好章





今日の富士山



大阪城



肥後石

前回の復習

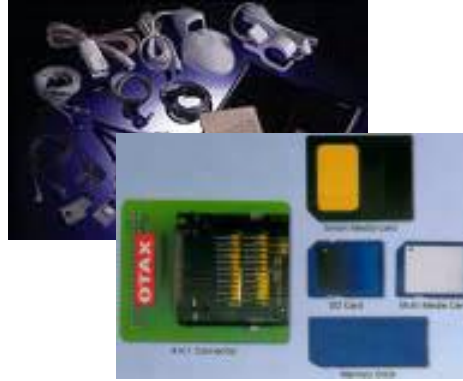
制御機器

スイッチ・ブレーカー・センサー



機構部品

コネクタ・リレー・ケーブル



保安器

電源用・ケーブル用・端末機機用

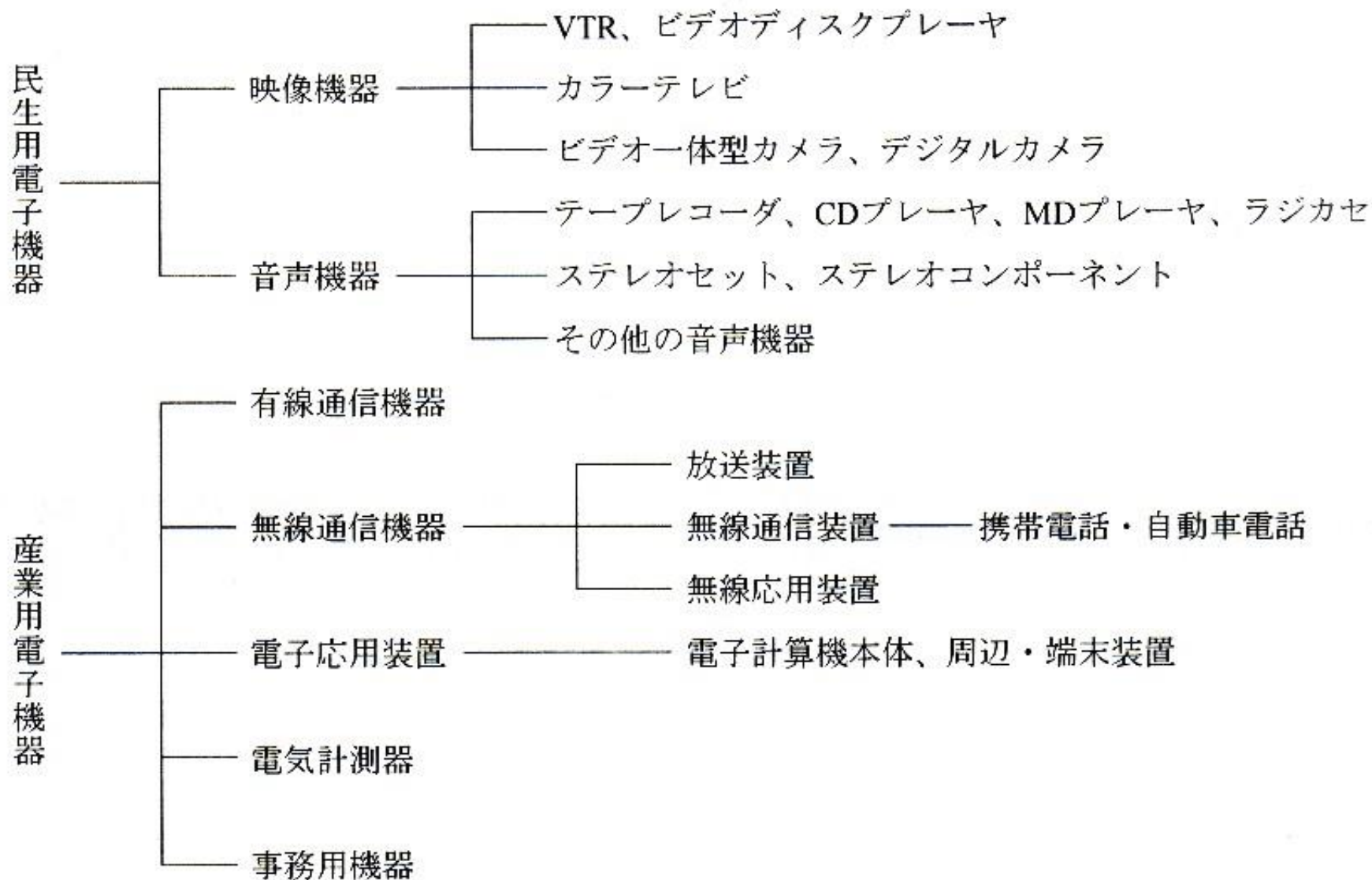


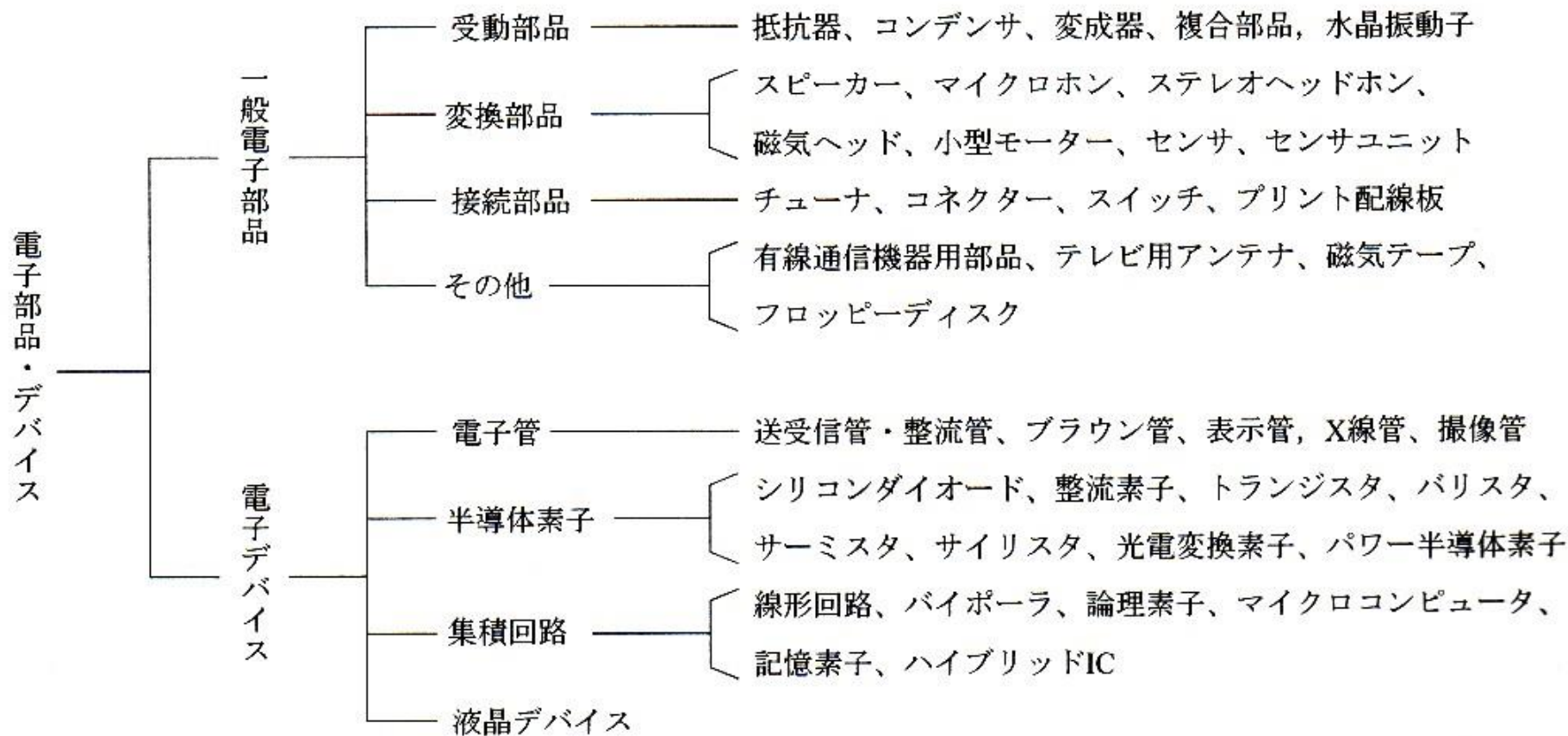
避雷器

アレスタ・サイリスタ

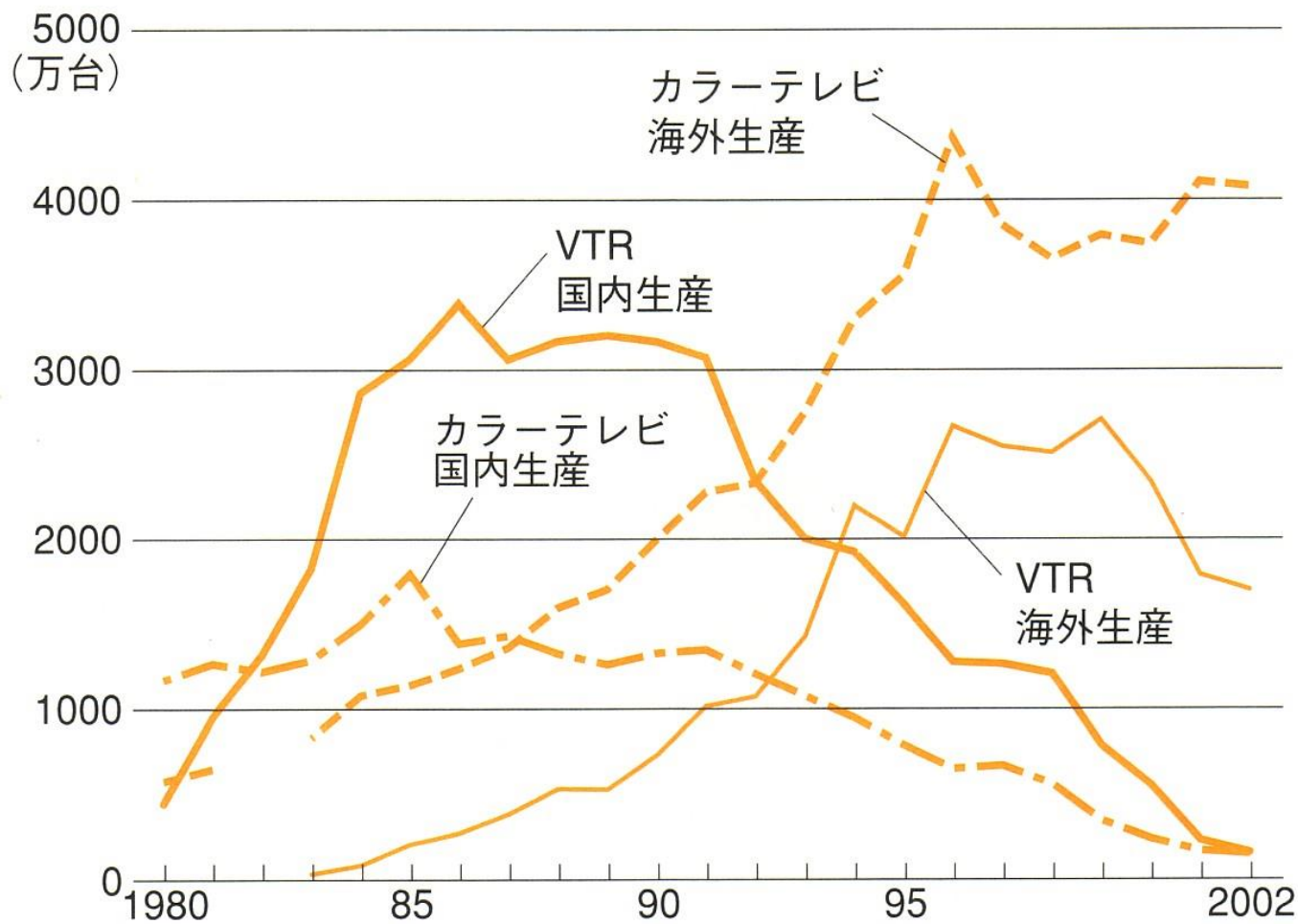


図表 1 電子工業製品の分類





(資料) (社)電子情報技術産業協会編「2003年電子工業生産見通し」の表などから筆者作成。



15 カラーテレビ・VTRの国内生産と海外生産

電子情報技術産業協会ぎじゆつしらべ。テレビはえき液しょうをふくまず。海外生産は日系企業の各海外拠点での生産台数の合計で、会計年度。1982年の海外生産は調査がなかった。

表2-1 アジアの日系電子メーカー法人数

タイ	シンガポール	マレーシア	フィリピン	インドネシア	中国	香港	台湾	韓国	合計
110	170	158	53	77	335	75	154	100	1232

(出所) 東洋経済新報社『海外進出企業総覧』1998年, 23ページ。

表2-2 主要電気メーカー対外進出状況

(社)	現地法人数 (人)	従業員数(人)	派遣人員数	海外生産 比率(約%)	輸出依存率 (約%)	内対アジア (約%)
松下	182	48,745		14	35	40
東芝	88	71,170	659		30	38
日立	87	75,590	830		22	40
三洋	86	25,236		28	30	58
NEC	78	40,857	871		21	45
ソニー	68	22,199		20		
三菱	65	47,752	572	17	23	42
富士通	64	48,225		20	14	35
シャープ	44	23,416	348		44	25
合計(参考)	762	403,199	3,280			

(出所) 東洋経済新報社『海外進出企業総覧』1997年, 651ページ他。

図 8 - 3 調達の流れ

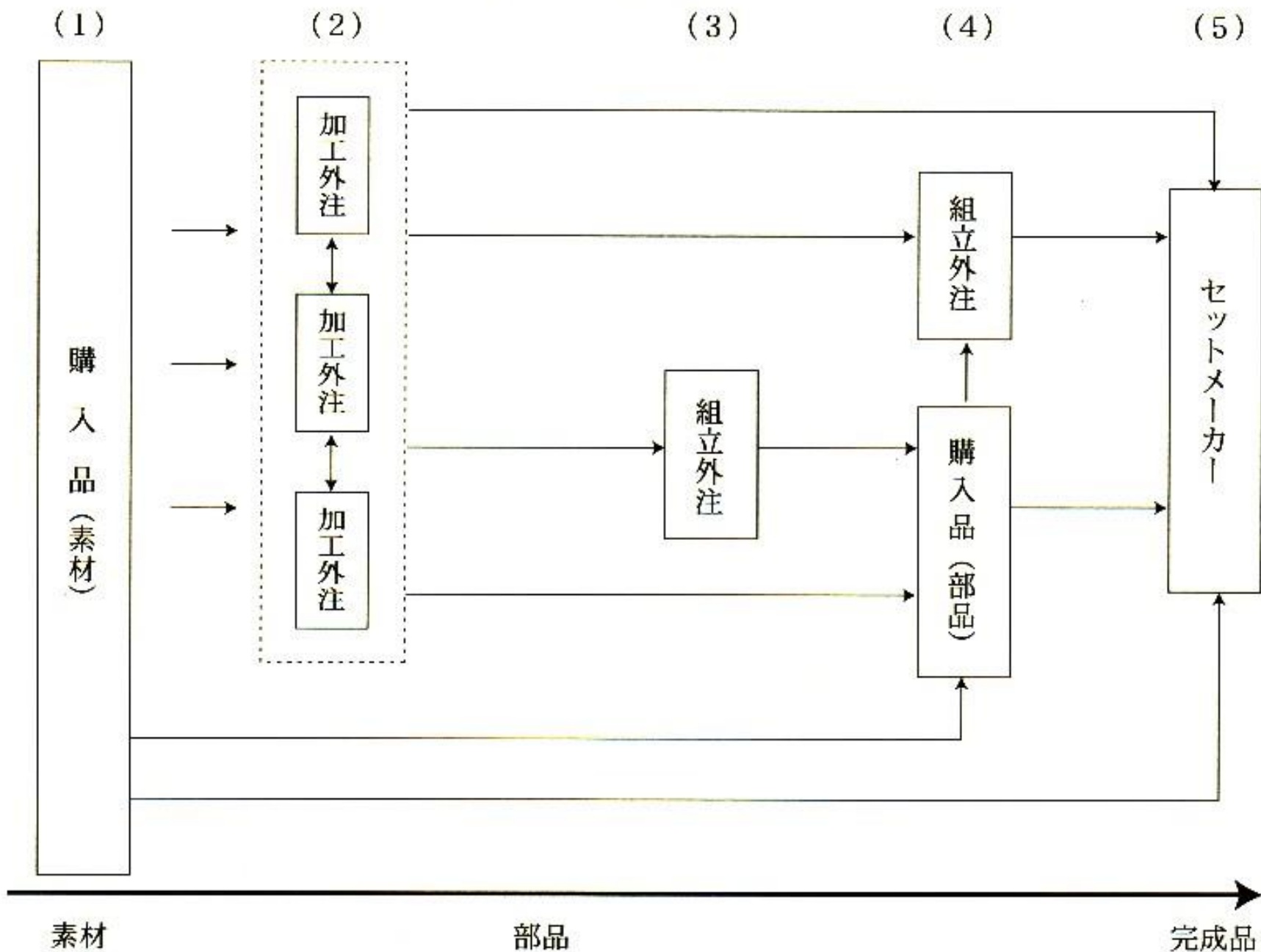
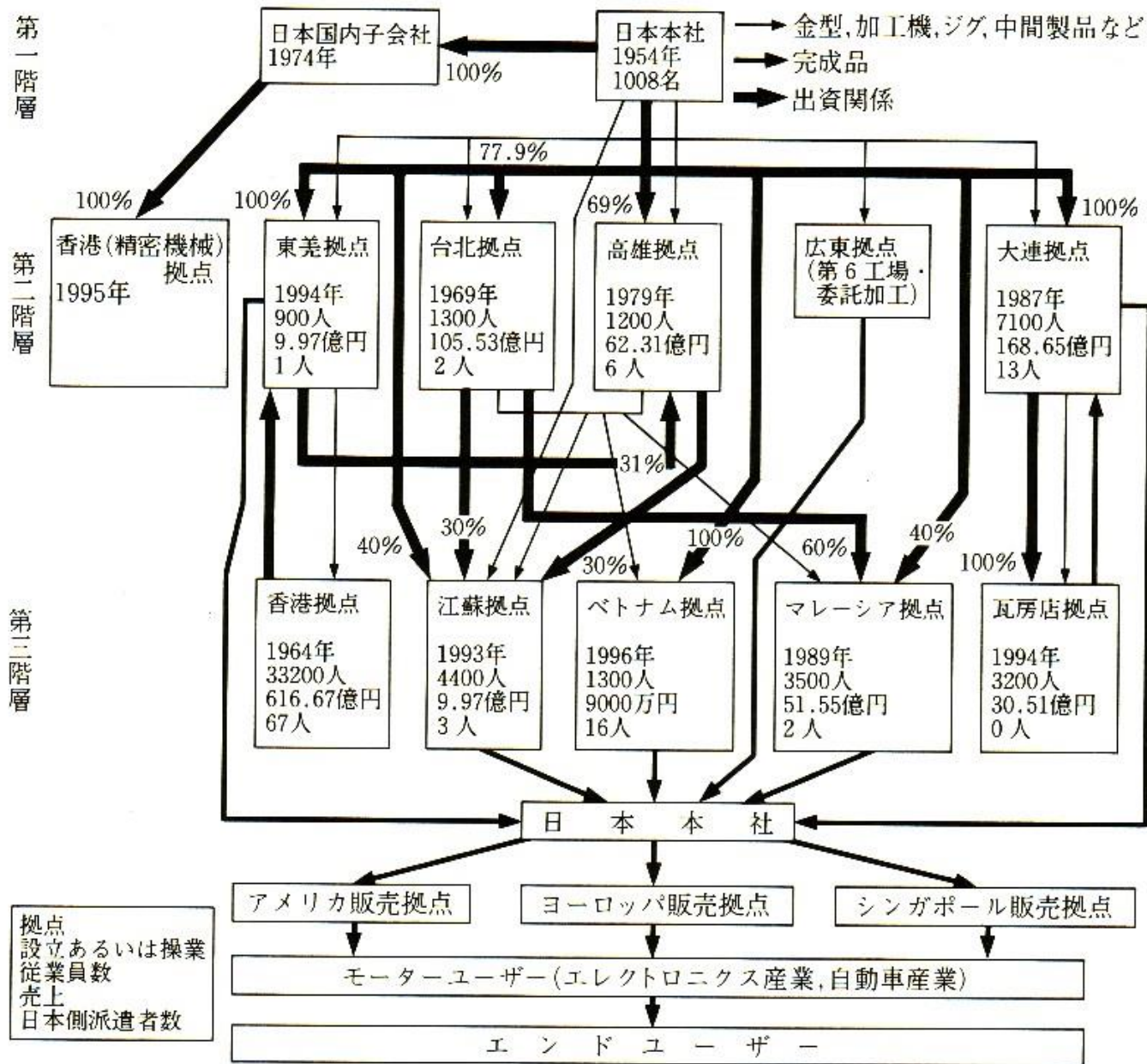


図6-1 電子部品メーカーの階層的分業構造



(資料) 『週刊東洋経済臨時増刊海外進出企業総覧'99会社別編』『有価証券報告書』および日本本社への聞き取り (2000年8月11日)。

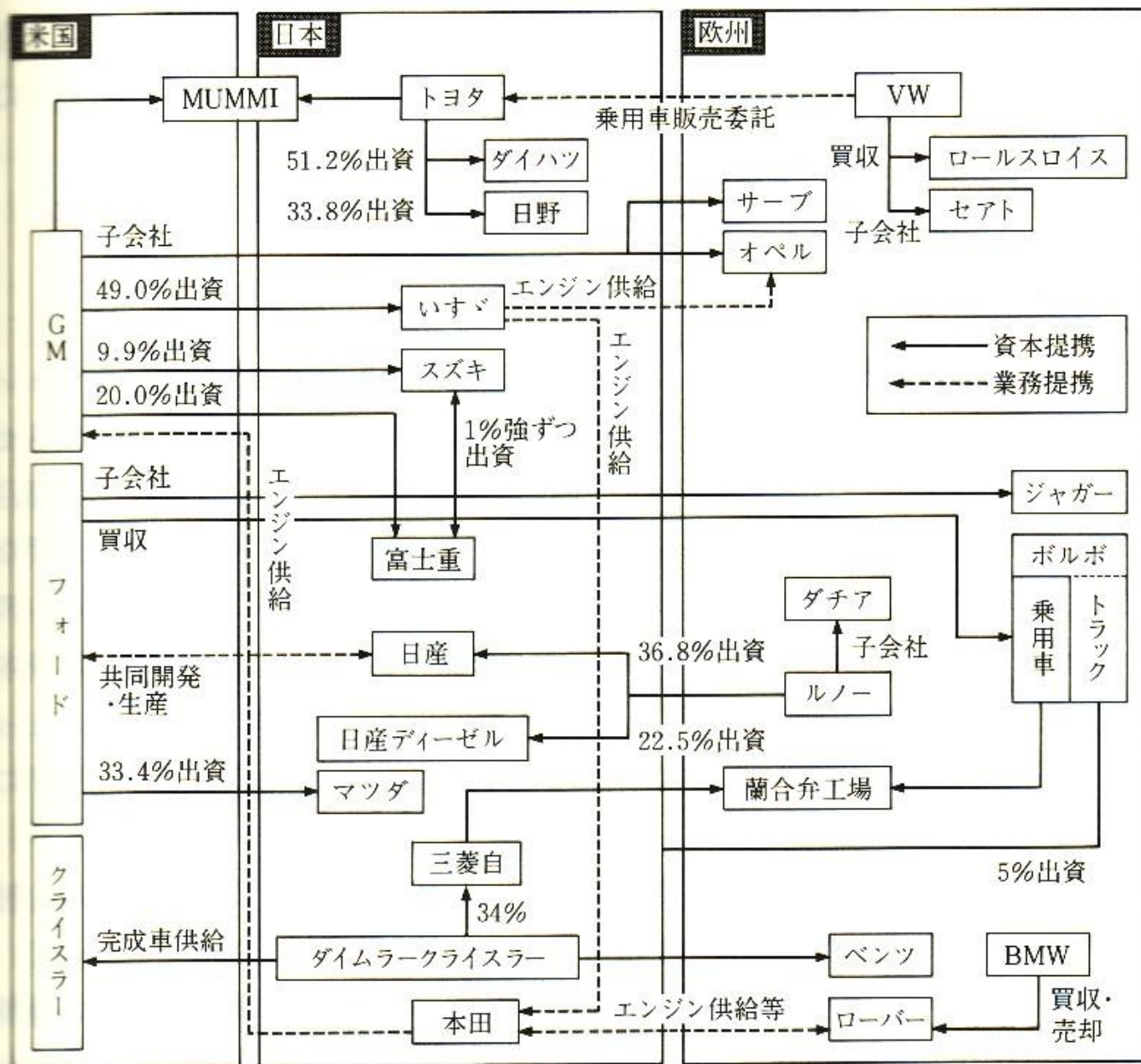
前回の復習
おわり

本日のテーマ

中小企業の国際化の事例をみる

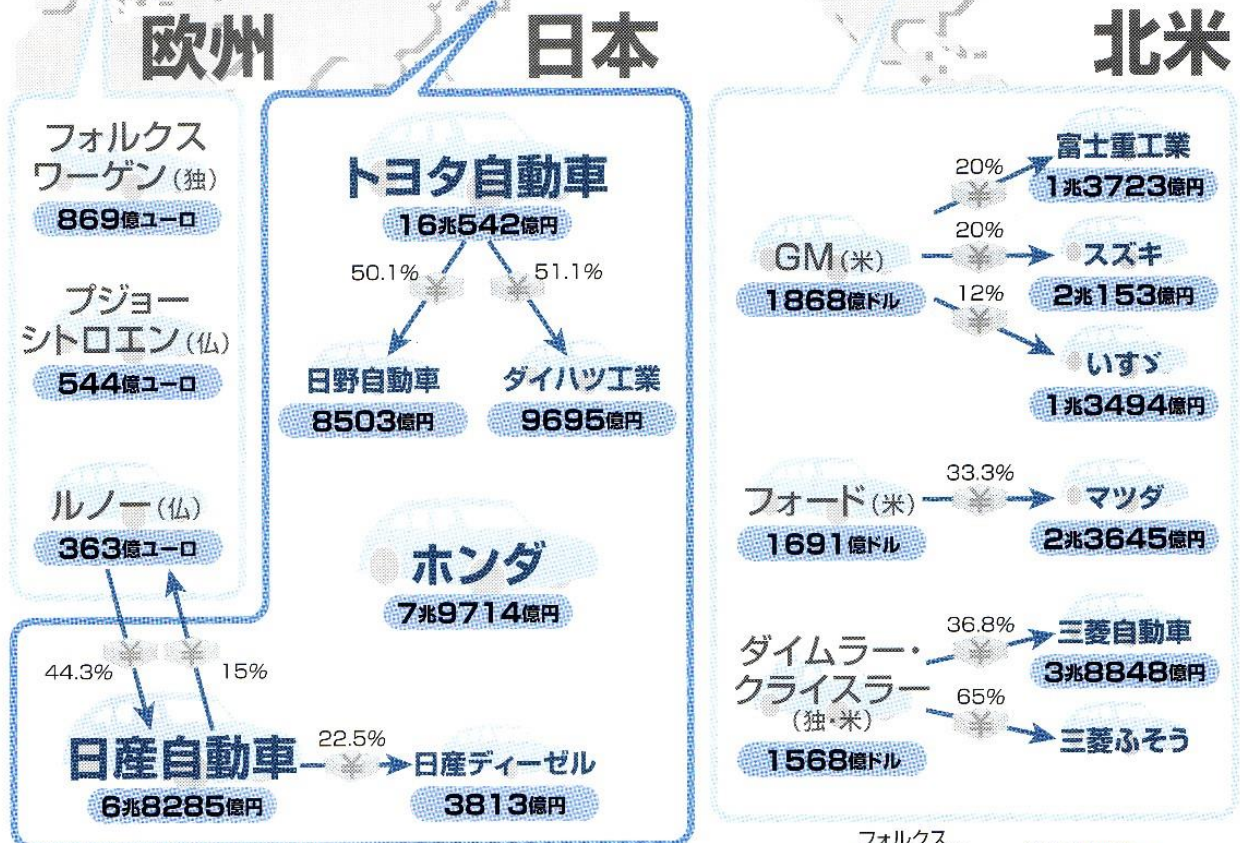
自動車部品産業

図1-2 国際的な自動車メーカー合従連衡



(出所) 各種新聞などより作成。

独立を貫く日本メーカーはトヨタ、ホンダだけに

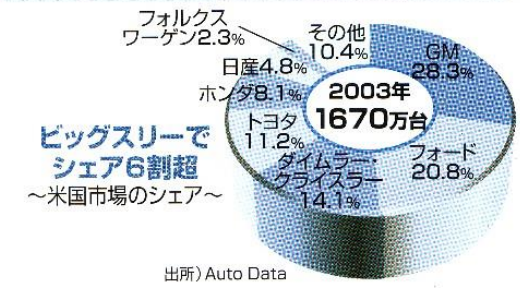


注) 社名の下は直近決算の連結売上高。※は出資比率

2002年の世界販売台数ベスト10

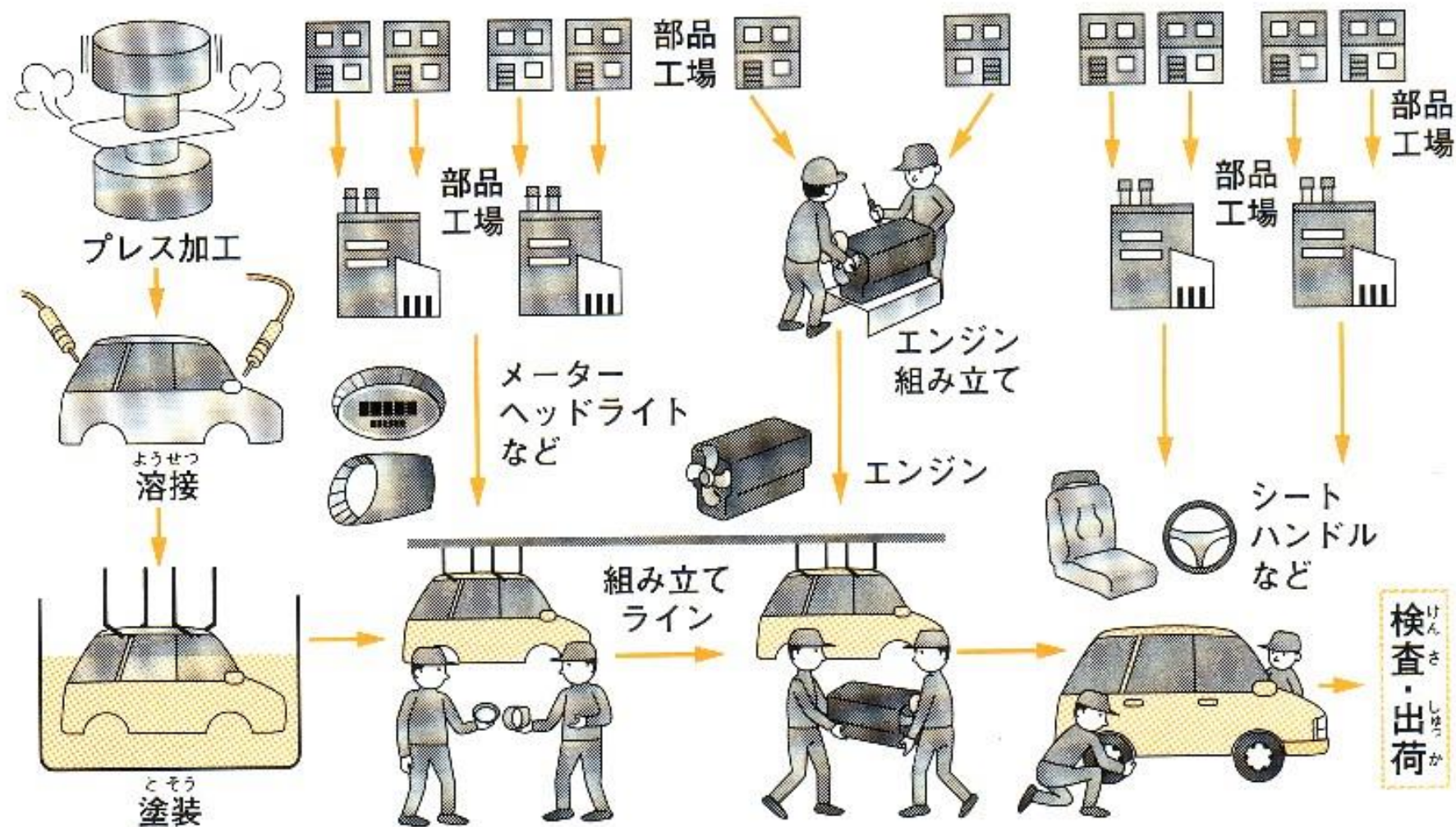
順位	社名	台数	順位	社名	台数
1	GM	850	6	プジョー・シトロエン	326
2	フォード	681	7	現代	293
3	トヨタ	616	8	ホンダ	282
4	フォルクスワーゲン	498	9	日産	273
5	ダイムラー・クライスラー	454	10	ルノー	240

出所) Automotive News、単位:万台



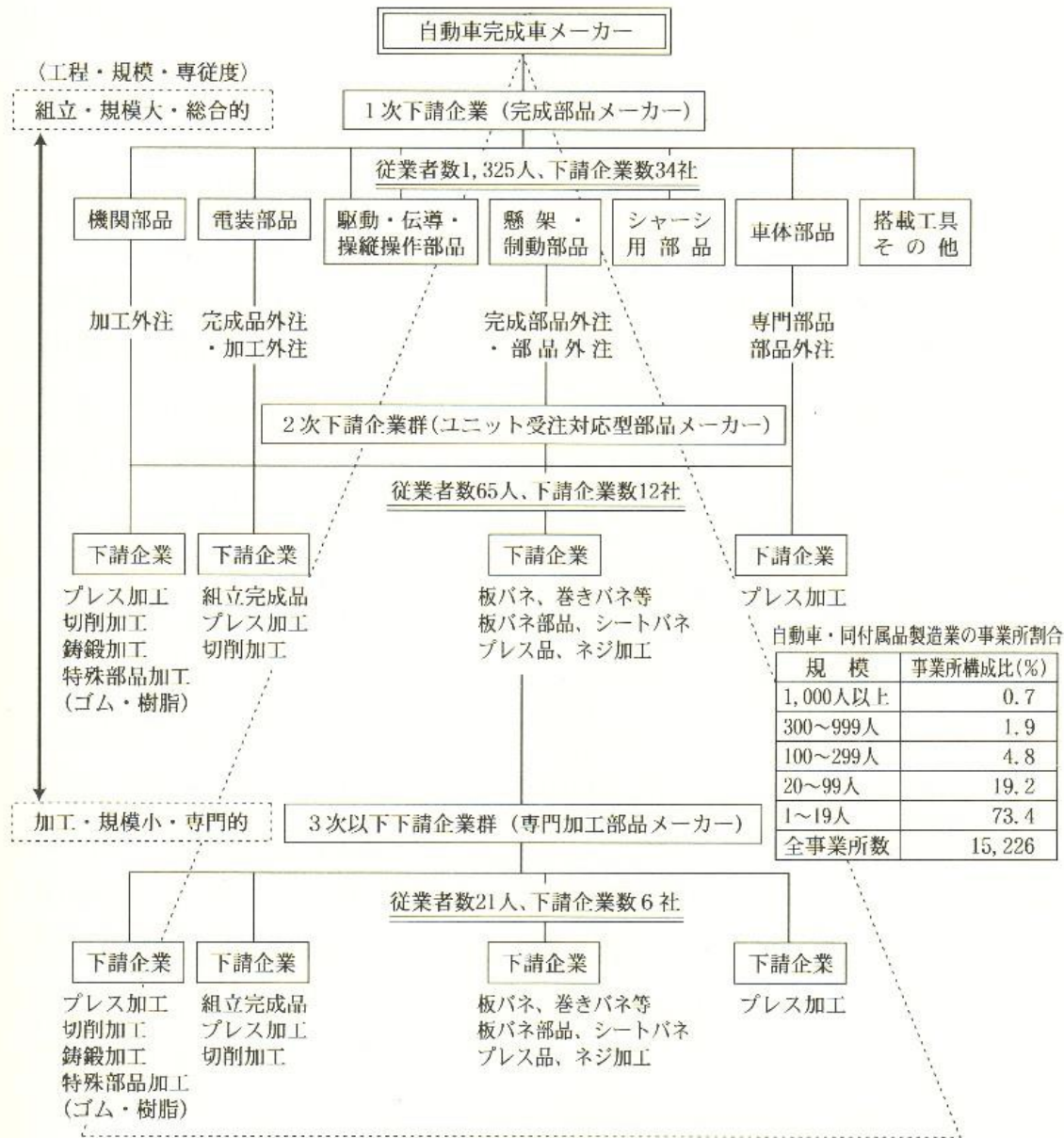
出所) Auto Data

7 自動車生産のしくみ



自動車の組み立ては、作業を細かく分担し、ベルトコンベアなどによる流れ作業で行わ

図 4-2 自動車製造業における下請分業構造の概念図



(注) 1. 購買部品等についてはふれていない。
2. ユニット受注対応型メーカーとは、完成部品を構成している機能的・機構的にまとまった部品構成体を組立・加工・製造している部品メーカーを指す。

(資料) 中小企業庁『平成7年度中小企業白書』p.175。

自動車部品

エンジン部品：ピストン、気化器、燃料噴射装置、ラジエター

電装・電子部品：始動発動器・充電発動器、配電器

照明・計器類：前照灯、信号・標識灯、スピードメーター

駆動・伝動・操縦装置部品：ハンドル、クラッチ、車輪

懸架・制動装置部品：ショックアブソーバー、ブレーキ装置

車体部品：プレス部品、シート、シャーシフレーム、内装品

用品：ラジオ・ステレオ、冷・暖房装置

自動車部品業界

トヨタ系

2兆3327億円

デンソー

1兆4080億円

アイシン精機

1兆692億円

豊田自動織機

3111億円

小糸製作所

自動車部品業界世界3位

ホンダ系

2552億円

ケーシン

2254億円

八千代工業

1996億円

ショーワ

1381億円

ユタカ技研

日産系

5450億円

カルソニック
カンセイ

1387億円

愛知機械工業

535億円

鬼怒川ゴム工業

451億円

橋本フォー
ミング工業

<日産系から離脱>

1275億円

トキコ

日立製作所系

2977億円

NOK

蓄電池

日本電池

↕ 04年4月
経営統合

ユアサ
コーポレーション

蓄電池

GM系

デルファイ(米)

自動車部品業界世界トップ

1172億円

市光工業

仏ヴィオレ社系に

1136億円

エクセディ

アイシングループ系に

716億円

日本プラスト

ダルフィ・メタル社(スペイン)系に

日立製作所系に

日立ユニシア
オートモーティブ

旧ユニシアジェックス

652億円

ヨロズ

米タワーオートモーティブ系に

ステアリングケージ

リズム

JPモルガンに

フォード系

ビステオン(米)

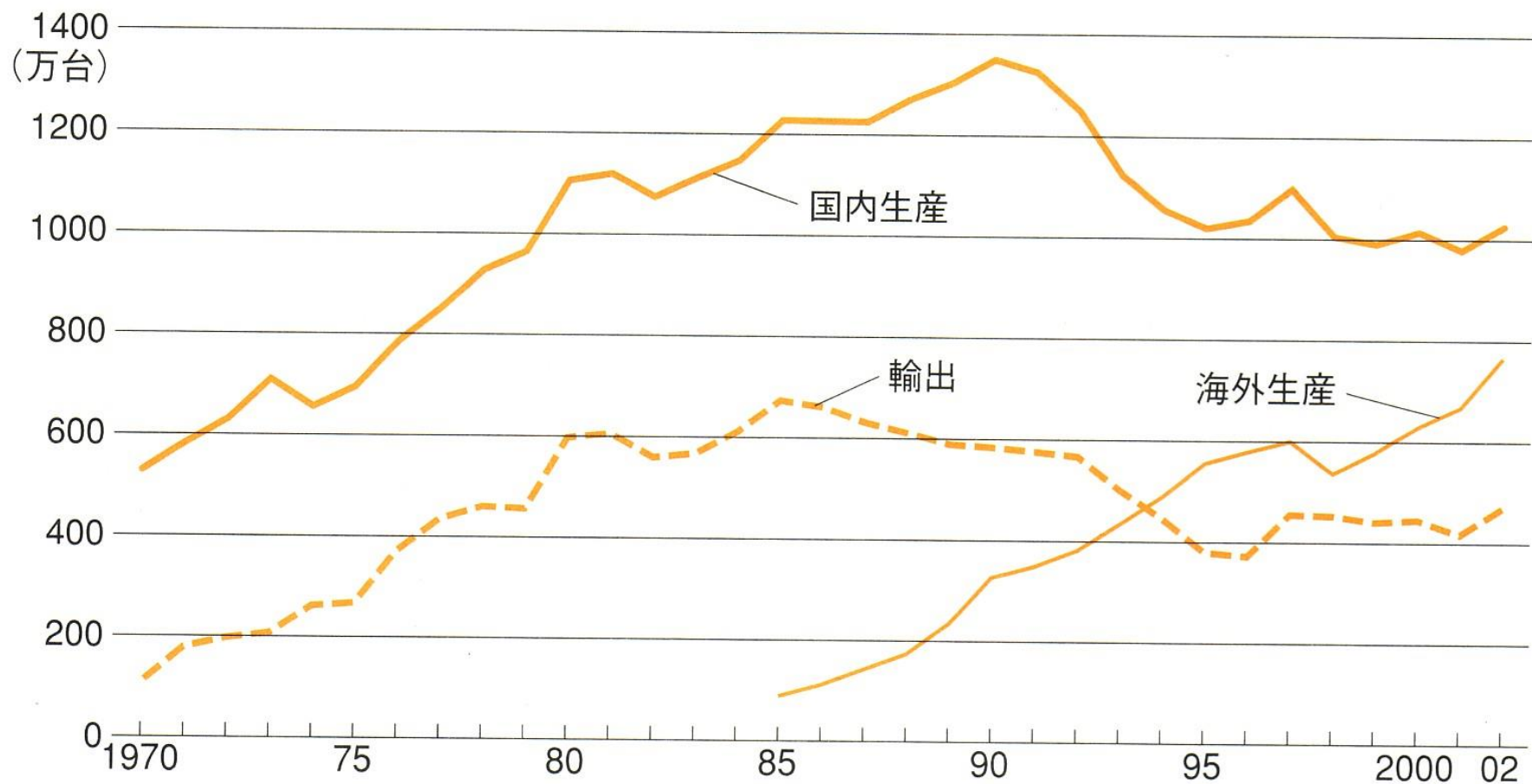
自動車部品業界世界4位

独ボッシュグループ

ボッシュオート
モーティブシステム

自動車部品業界世界2位

3 日本の自動車生産・輸出と日本メーカーの海外生産 (日本自動車工業会しらべ)



自動車部品産業のアジア展開をみる

日本の完成車メーカーの海外生産：

1997年 海外生産台数 632万台

北米 273万台：アジア 224万台

1位米国 237万台、第2位タイ 51万台

タイにおける部品メーカー

車種別：1トン・ピックアップトラックが多い
自動車販売台数の56.4%（1998年）



上記車種の日本車のシェアは
90%前後（1991年以降）、

乗用車は68.7%（95年）

日本の完成車メーカー 8社 現地と合併
タイの13社のうち10社が日本との合併

生産台数に占める日本車のシェア

97.9%(1998年)

日本企業がタイの自動車生産の担い手

部品メーカー:

140社がタイに生産拠点を(98年)

完成車: 現地販売98.3%

部品メーカー: 現地向け販売83%

完成車メーカーと部品メーカーとも

現地調達率: 30%

部品は輸入にたよっている。

1973年末 部品価格比率25%義務化
その後は部品メーカーに進出は少ない
1984年末、54%から66%に。

部品メーカー32社進出

1990年代に、進出活発化、

94年から97年にラッシュ、

96年39件、毎年20件以上

背景:

完成車メーカーの生産能力の拡充

完成車メーカーへの価格・品質・納期競争力向上

三菱:

1992年1トンピックアップトラックの生産

日本から移管

その工業団地に日本の部品メーカー13社を誘致。

1994年以降、「アジア戦略車」の投入

ホンダ:シティ:シビックベース乗用車1300CC

トヨタ:ターセルベース乗用車1500CC

日産:ワゴン、ピックアップトラック

三菱:デリカベース車

いすゞ:パンサーベース車

ホンダ：シティの生産

20社の部品メーカーがタイ進出

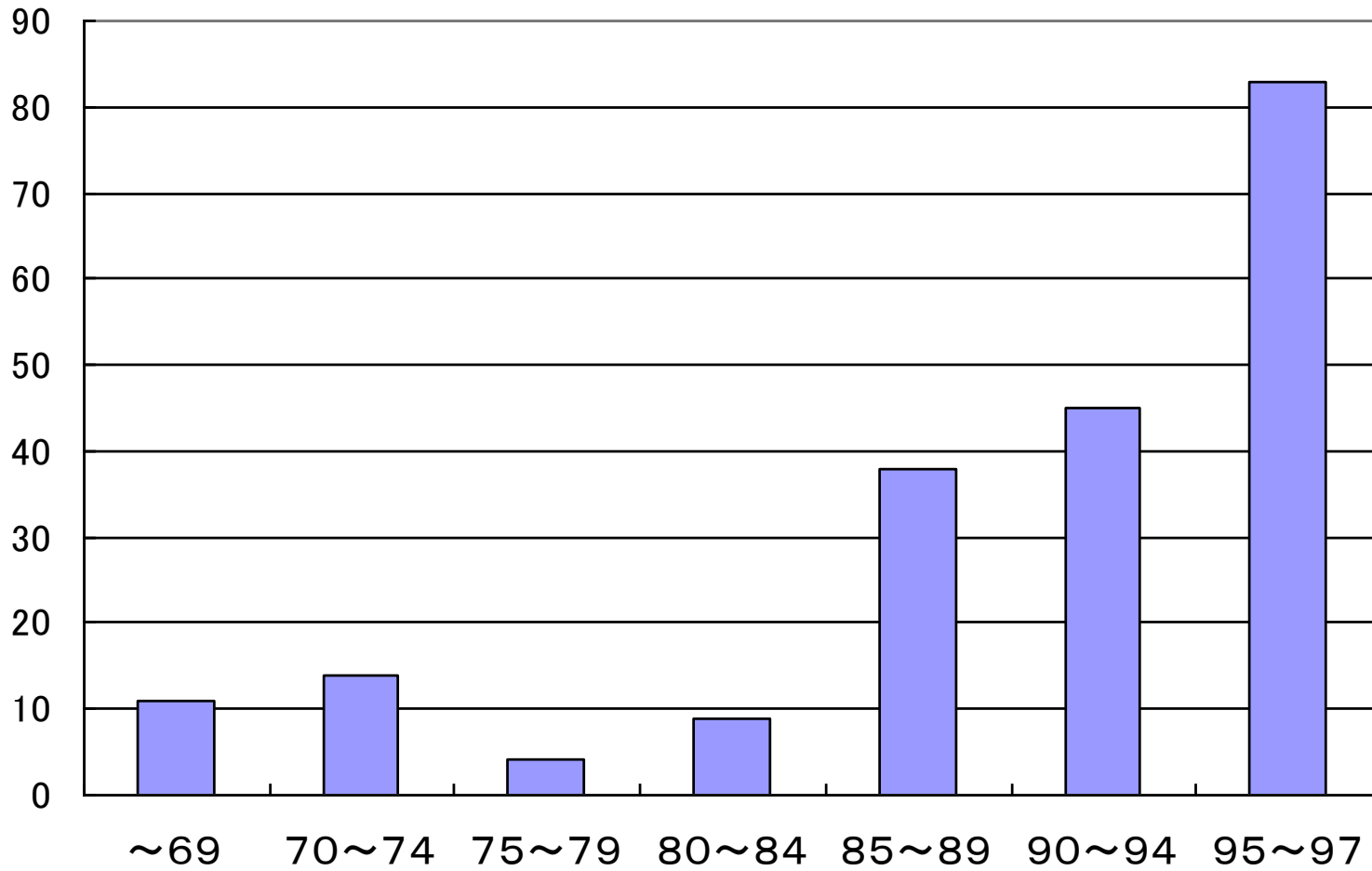
シティは70%の現地調達率

トヨタ：ハイラックス生産

1994年から97年に部品メーカー20社が進出

AICO(ASEAN産業協力)スキーム利用

タイへの日本の部品メーカー進出件数



進出の特徴

部品の種類は多岐にわたる

機能部品の進出が多い、

ブレーキ等、技術的に難しいもの

様々な業種に裾野が広がる(成型、金型等)

完成車メーカーのグローバル戦略に対応した

部品の生産体制の構築、

タイ市場の開拓

2次メーカーの進出

1次部品メーカーに2次メーカーがついて行く。
1次部品メーカーに部品供給。

1) 1次メーカーの要請で進出、
現地にない高度な加工技術で、
当初の取引先以外との多くの日系企業と
取引獲得。

2) これまでの販路を失うことから、
販路維持のための進出。
現地での分業体制を整えてきた。

タイ国内での完成車の販売競争が激化

日系完成車メーカー：

部品メーカーへのコスト削減要請強化

タイからの完成車輸出が増加

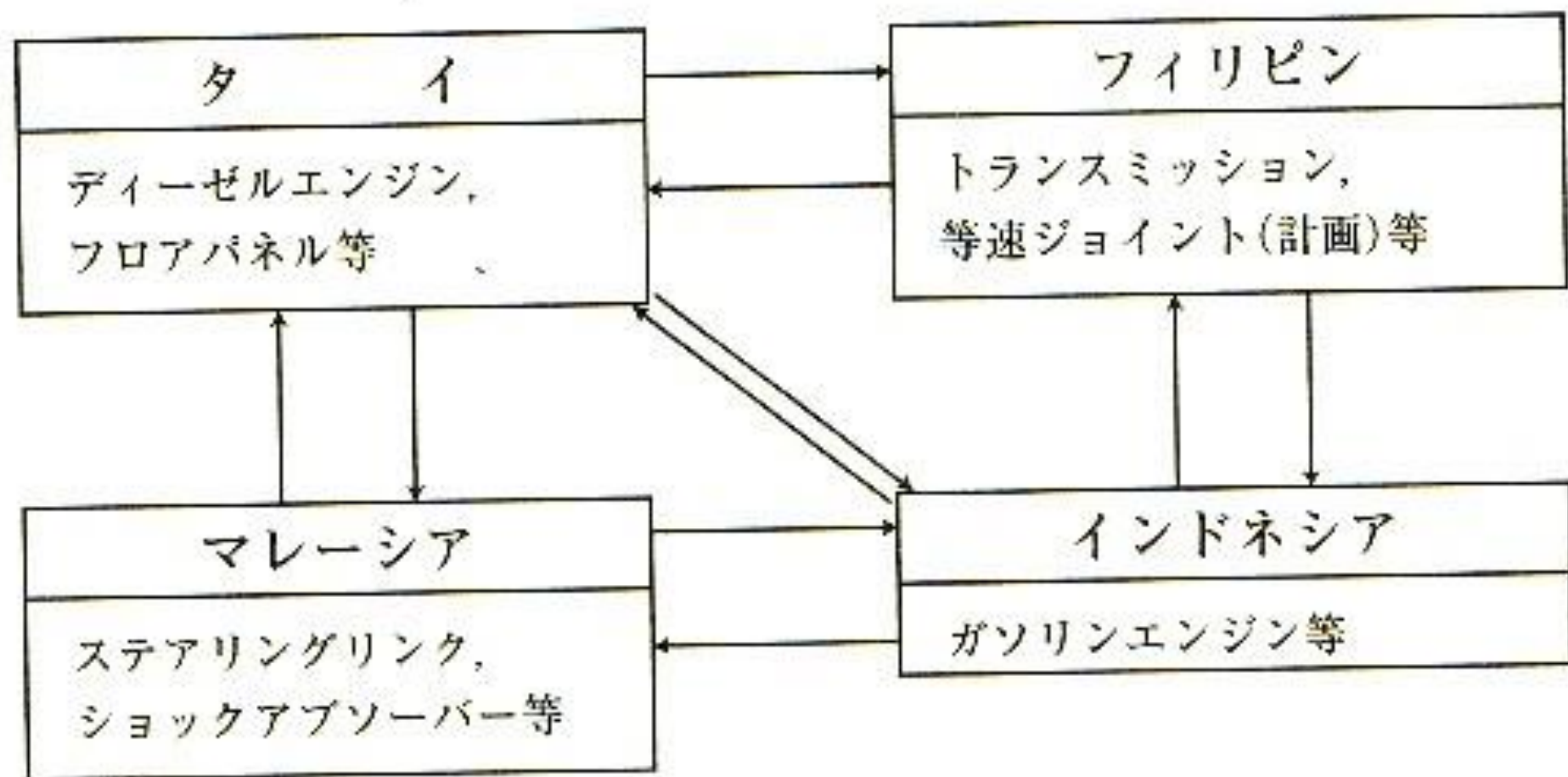
部品水準を「タイ国内レベル」から

「国際水準」へ高める。

部品メーカーに対する選別

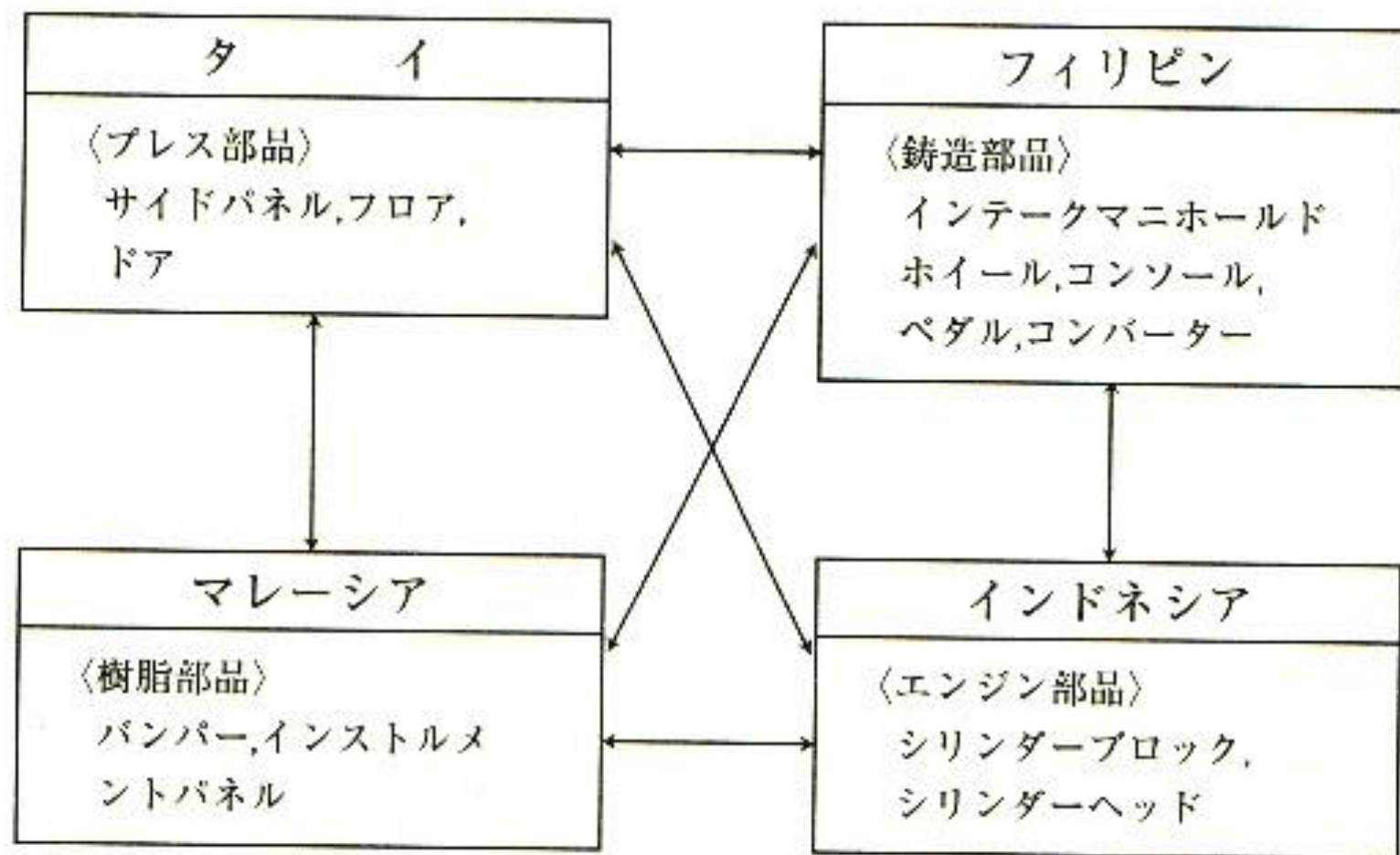
日本から生産を移管、日本向けの部品輸出を開始。

図6-2 トヨタのアジアにおける現地調達への取組み
 (アジア拠点間の主要部品供給)



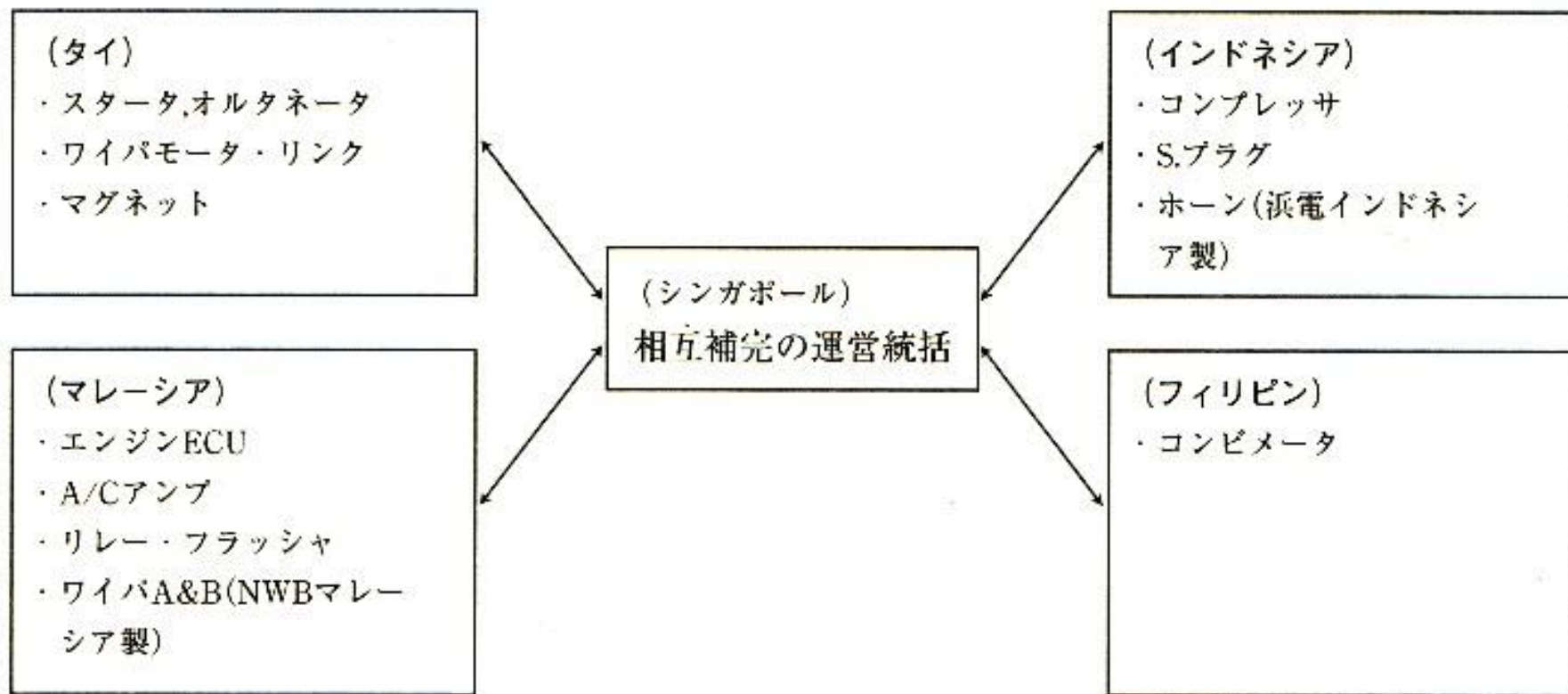
出所：図6-1に同じ。

図6-1 本田のアジアにおける現地調達への取組み
 (アジア拠点間の主要部品供給)



出所：FOURIN 『自動車調査月報』 No. 130, 1996年6月, 27頁。

図 6-3 A社のASEAN 相互補完

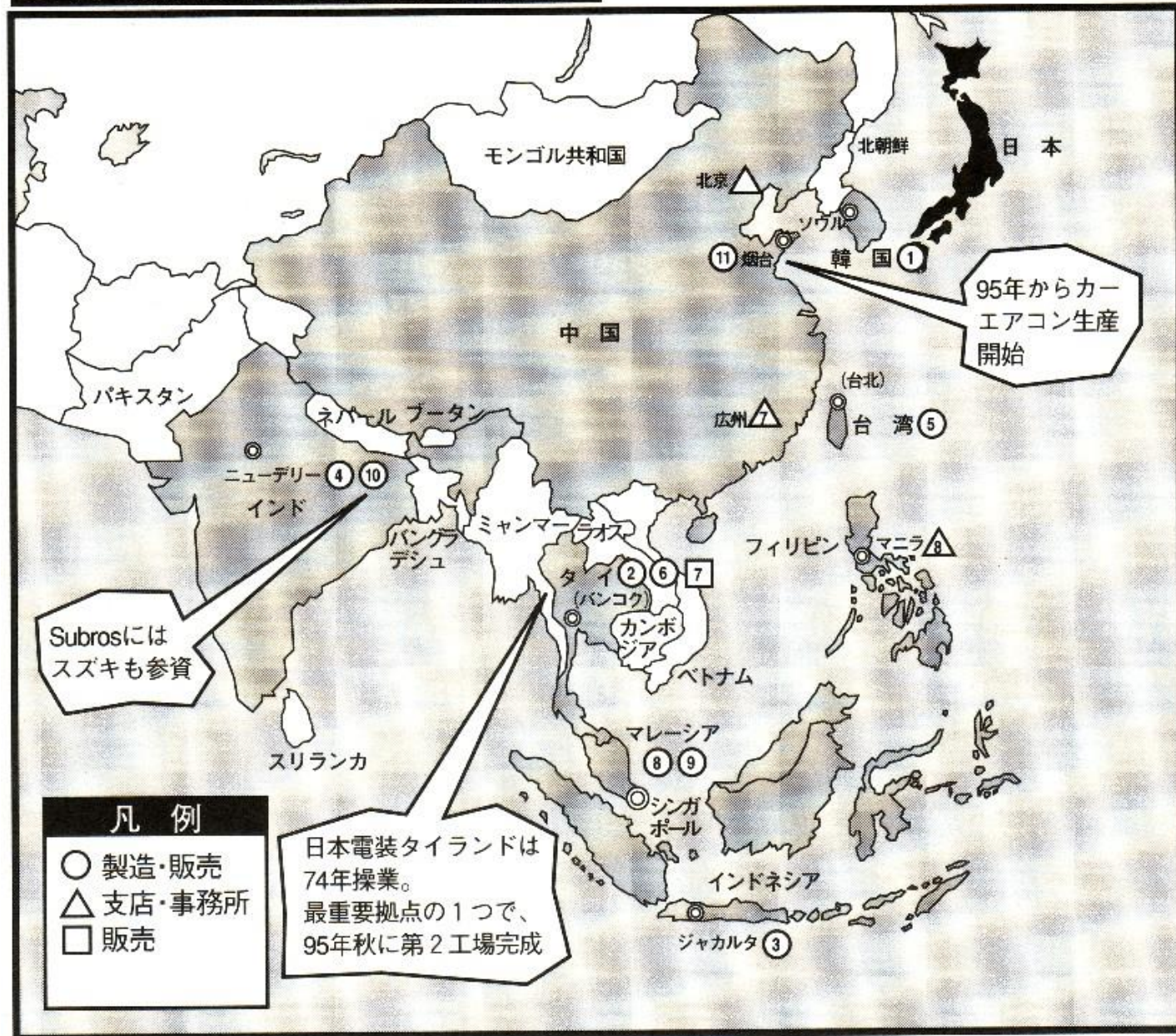


出所：A社提供資料。

基本戦略は自動車メーカーの進出にあわせたアジア展開、

95年初から中国で現地生産開始

日本電装



日本電装

海外現地法人

- | | | | |
|-----------------|------|--------------------------------|--------|
| 1. 豊星精密 | (50) | 自動車、二輪用メーターの製造・販売 | 韓国 |
| 2. 日本電装タイランド | (36) | 自動車電装品及びエアコン、プラグ等の製造・販売 | タイ |
| 3. 日本電装インドネシア | (44) | 自動車電装品、ラジエータ、エアコン、フィルター等の製造・販売 | インドネシア |
| 4. SRF日本電装 | (37) | オルタネータ、スタータ、ワイパーモータ等の製造・販売 | インド |
| 5. 台湾日本電装 | (80) | 自動車電装品、エアコン等の製造・販売 | 台湾 |
| 6. 日本電装ツール&ダイ | (87) | 金型・治工具の製造・販売 | タイ |
| 7. 日本電装タイ販売 | (32) | 電装品、カークーラー等の販売サービス | タイ |
| 8. 日本電装Sdn.Bhd. | (40) | 自動車用電装品の製造・販売 | マレーシア |
| 9. 日本電装キャピタル | (43) | 自動車用エアコンの製造・販売 | マレーシア |
| 10. Subros Ltd. | (13) | カーエアコンの製造・販売 | インド |
| 11. 烟台首鋼日本電装 | (30) | カーエアコンの生産 | 中国 |

ビデオ鑑賞

ワールドビジネスサテライト
アジア経済戦国時代5

家電戦争アジアに賭ける



テレビ東京：2004年1月放送
5回シリーズ

現代経済事情Ⅱ

日本の中小企業とアジア

第6回終わり

2004年5月26日

高田好章

